

# 竹内街道から磯長王陵の谷を巡る

(会員) 山口 久幸

数日来不安定であった天候も、この日は早朝から晴れ上がり、陽気に誘われて参加者は二十九名。近鉄喜志駅きしから太子町の六枚橋でバスを降り、舗装された竹内街道の坂道を登り孝徳天皇陵に向かう。



孝徳天皇陵拝所前

## 孝徳天皇大阪磯長陵しなが(上ノ山古墳)

陵は山の南西に位置し、陵前では周囲の雑木を数人で伐採作業をしているところであった。被葬者は大化の改新時に在位した天皇であるが、政治の実権は皇太子である中大兄皇子が握っていたとみられる。後年皇太子の「倭の京に遷らむ」(『書紀』白雉はくち四年の条)との進言を聞かず一人取り残され、翌五年十月に難波宮で崩御した。

その為か陵は径三五メートル、高さ七メートルの小さな円墳である。陵外を一周したが、如何にも小さな陵である。洞窟内に石棺が存在するとの記録があるが、詳しい内容は不明である。



孝徳天皇陵周囲を廻る

## 竹内街道資料館

竹内街道は都が平城京に移るまでの間、難波から飛鳥を結ぶ主要な道で、我が国最初の官道と云われる。多くの貴人が往来し、海外よりもたらされた珍品がこの道を通り飛鳥に運ばれたであろう。館内ではそのコースと歴史的な出来事や周辺の史跡が紹介されている。



科長神社

## 科長神社しなが

資料館の先にある道の駅「近つ飛鳥の里・太子」付近で昼食をとる。食後、道の駅の前を走る自動車道の端を歩き、最初の信号を左折し村中に入る。山麓に寄り添うように科長神社が鎮座する。人影はなく樹木に囲まれた境内は静かである。風の神である級長津彦命・級長津姫命・科長戸辺命を

祀る。元は二上山上に在ったが、鎌倉時代に当地に移されたと云う。拝殿を廻ると立派な三間社流造の本殿がある。末社に土つちの祖神社みおやがあり、この地の支配者であった息長氏の祖神を祀っていると伝えられている。

## 二子塚古墳

集落を抜け田畑を見渡せる場所に出ると、あちこちで稲刈りが行われている。作業をしている人たちに挨拶しながら、田畑の中の小高い尾根に登る。古墳は低い尾根の上にある。墳丘は崩れていて、中央部が窪み双方墳のように見えるが、長方形の方墳とも考えられている。墳丘は長辺六〇メートル、短辺二五メートル、高さは北丘四・八メートル、南丘六メートルを測る。両墳頂の下に南東に開口した横穴式石室があり、一方の石室の露出した石の隙間から、蒲鉾形の石棺が僅かに望める。

## 推古天皇磯長山田陵（山田高塚古墳）

山田丘陵の先端部に築かれたとされる。

推古天皇は当初、竹田皇子の墓に、天皇の遺言により追葬されたと『書紀』は伝えている（推古天皇三六年九月の条、当初の陵は、通説では橿原市植山古墳うげやま）。その後、この磯長山田陵に改葬された。近づくると正面隅の石垣に亀裂が入り、危険なので縄張りなはがされている。長形の方墳で横に廻ると、木立の間から三段に築かれているのが判る。



推古天皇陵に向かう



柵の外から見える推古天皇陵段築

記録では最上段は東西三三メートル、南北二二メートルで、二つの横穴式石室が並んでいると云われる。

### 葉室歴史公園

公園内に幾つかの古墳があり、入口の「かまど塚古墳」は七世紀前半築造の円墳で、周濠を持ち径四五メートルを測る。園中央

部にある「石塚古墳」は六世紀末から七世紀初頭に築かれたと見られ、一辺三〇メートルの方墳と説明されている。墳丘全体が個人の所有の為園外になるが、園の垣根に沿って「越前塚古墳」が位置する。

### 越前塚古墳

公園を出て隣の越前塚古墳に入る。墳丘の西半分は竹が茂り、東半分は墳頂までミカン畑になっている。丁度土地の所有者の家族がミカンの取り入れをしているところで、立ち入りの許可をお願いする。東西約七五メートル、南北約五五メートル、高さ約八メートルの大きさを持つ長方形墳である。西半分の竹藪部分は窪んでおり、石室が破壊されたことに起因すると見られる。ミカン畑の東部墳頂下にも横穴式石室が存在すると考えられている。所有者の家族から「祖母の時代にミカン畑で金の腕輪が出たと云う話を聞いているが、盗掘にあっている」と云う話があった。

当墳の規模は推古・用明陵より大きく天



越前塚古墳にて

皇陵級である。『陵墓要覧』では敏達天皇陵の所在地を南河内郡太子町大字太子奥城（現在の葉室）とし、また陵名が河内磯長中尾陵とある。このため、当地が中尾に当たるとして、当墳が真の敏達陵ではないかとする意見もある。

『書紀』崇峻天皇四年四月の条に、  
をさたのすめのみこと  
 「詛語田天皇（敏達天皇）を磯長陵に葬り



まつる。是其の妣皇后いらはのきみ（母・石姫、欽明天皇皇后）の葬られたまひし陵なり」と記している。『延喜式』では陵号と墓号を分記し、別個に守戸を置くと記していることから、合葬ではなく二か所に分けて埋葬されたと考えられている。

### 用明天皇河内磯長原陵（春日向山古墳）わかいやま

一辺六五メートル、高さ一一メートルの方墳と云われるが、宮内庁刊『陵墓地形図集成』によるのみで、内部はよく判らないと云われる。陵の周囲は綺麗に整備されている。江戸時代に横穴式石室が開口し、石棺が見られたと伝えられている。

### 太子・和みの広場

叡福寺に隣接して公園があり、奥の屋根の下に石棺が展示されている。「松井塚古墳の石棺」と呼ばれ、山田地区の民家の地下から井戸堀の際に石室が発見され、後に石室内の石棺が現在地に運ばれ展示されている。この石室は当時使われていた唐尺で

築かれたと考えられ、規模は大化の薄葬令の王以上の貴族の墓制に合致すると云われる。石棺は小口に開口部を設け、石扉を嵌

### 叡福寺聖徳太子廟前にて



める構造になっていている横口式の家形石棺で、身と蓋の二石からなる。

### 聖徳太子磯長墓（叡福寺北古墳）

墳丘は丘陵の南斜面に立地し、径五四メートル、高さ七・二メートル前後の円墳と云う。両袖型の横穴式石室を持ち、皇太子の母穴穂部間人皇后を奥に、左に太子妃膳臣あなほべのはしひとの女、右に太子の合葬墓である。羨道は長さ七・二メートル、玄室は長さ五・四メートル、幅・高さは三メートルと記録されている。

スケジュールを終え静かな叡福寺の境内を散策しながらバス停に向かう。予定していた「上の太子駅行」の時間に間があり、喜志駅行きバスで帰途につく。見学するところが多く余り気にならなかったが久しぶりによく歩いた一日だった。



# 宝塚市長尾山古墳発掘調査現地説明会

—十月十六日(土)—

(会員) 山口 久幸

宝塚市教委と大阪大学考古学研究室が発掘している、長尾山丘陵の先端部に四世紀

初めに築かれた全長三九メートルの古墳を、会として見学したのは二〇〇八年九月であった。当時、現場で寺前先生より葺石と埴輪の存在が確認され、墳頂部のレーダー探査で土質が四〜五メートルの範囲で、周囲と異なる箇所が認められたと云う説明を受けた。

以後、毎年発掘調査が進められ、今年は墳頂部下層より粘土槨が発掘された。その大きさと完全な形での発掘が新聞紙上でも紹介され、今回調査団による現地説明会が実施された。

見学開始に先立ち古墳前の公園に集まった人たちに対し、大阪大学教授福永団長が

ら今回の調査結果とそれに基づく被葬者像について見解が示された。

今回の調査の成果として

1 北クビレ部の調査により、以前調査した南クビレ部の位置との関係から墳形「前方後円墳」が確定した。

2 墓坑の規模と構造が長さ八・九メートル、幅五メートル、深さ二メートル以上で、二段に掘り下げられ、下段は地山を一メートル以上掘削していた。

3 墓坑の内部に長さ六・七メートル、幅二・七メートル、高さ一メートルの大きさを持つ粘土槨がほぼ未盗掘の状態で見えられた。盗掘を試みた様子はあるが、粘土槨までは達していない。

4 墓坑の南東隅で排水溝が造られていたことが確認され、北クビレ部の方向に

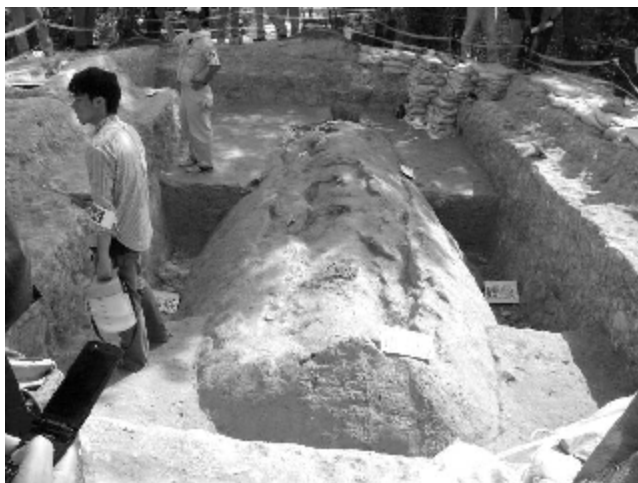


福永先生による全体説明

向いていると見られている。

粘土槨の大きさは全国でも十指に入る大きさで、当初の形をそのまま残している。考古学に携わっている先生方でも、これ程大きくて完全な形の粘土槨を見る機会は多くはないとのことである。

集まった人が多く、二十人位に組分けをして古墳に向かう。最初に北クビレ部の調



墓坑と粘土柳

査区域があり、二段築成の斜面に比較的大きな葺石が認められる。低い位置の一段目のテラス面に、一定間隔をあけて破損した埴輪の底部が土中に埋まっているのが判る。この埴輪は円筒埴輪と一部朝顔形埴輪で構成され、築造時期から形象埴輪は認められない。

埴頂部端に立つと、発掘された粘土柳が

眼下に現れる。実際に見ると想像以上に大きく、蒲鉾形で内部で落ち込みがあるのか上層部にへこみが見られる。粘土柳は礫を敷いた上に築かれているようで、粘土柳の両側の一段掘り下げられた所に礫敷が見える。

日が差し露出しているため粘土柳の表面が乾燥しないように、係りの人が霧吹きで水を掛けている。形が崩れないように維持保存が大変なようだ。

大和で粘土柳による葬送が採用されるといち早くこれを取り入れ、かつ巨大な粘土柳を築いていることから、当墳の被葬者と大和の強い結びつきが感じ取れる。被葬者については、猪名川流域を支配した地域の首長と思われると福永先生から話があった。内部の構造や埋納されているであろう副葬品について興味があるが、諸般の事情から、現時点では内部の開封の予定は決まっていないようである。内部の様子が知れる日が楽しみである。

#### 【堺市博物館】

百舌鳥・古市古墳群 世界遺産暫定一覧表  
掲載記念

特別企画展「百舌鳥古墳群―その出土品からさぐる―」を開催

■開催期間 十一月十四日(日)～一月

二十三日(日) 休館日

月十日(月・祝日)は開館) 祝・休日の

翌日 年末・年始(十二月二十四日～一月五日)

■入館料(常設展と共通) 一般二〇〇円

#### 【池田郷土史学会】

「北摂における地域史の発掘」

講師 小野市立好古館長 大村敏道氏

日時 十二月十二日(日) 十三時三十分～

場所 池田市立駅前南館二階会議室



## 読書室

## 検証『前期旧石器遺跡発掘捏造事件』

松藤 和人 著

定価（一六八〇円）

※著者割引で一三五〇円になります。

「捏造事件」とは何だったのか—— 何故二〇年もの間、捏造が発見されなかったのか？ どうして専門家が見破れなかったのか？ その石器はどこから調達したのか？ その後の学界の検証、本人の特異な詐欺能力、疑いを知らない東北人気質、性善説、今後の旧石器時代研究の方向性、海外との連携など…を、一般の人にもよくわかりやすく書かれていて、推理小説を読むように夢になり、一気に完読できる名著です。



江南の日差し豊かに冬耕す

宮田 佐智子



## 一月の例会

一月八日（土）午後二時より

場所 豊中市教育センター 六階

「長屋王の変と光明皇后」

堺女子短期大学准教授

水谷 千秋 先生

## 一月の現地見学

一月二十二日（土）新年会を兼ねて、伏見方面を訪ねます。

## 編集後記

今年は、御所市の秋津遺跡で心合寺山古墳等の「冪形埴輪」の実物モデルが発掘されたと話題になったのを皮切りに、牽牛子塚古墳・纏向遺跡・長尾山古墳と胸躍らされる発掘ニュースが続きました。締めくくりはまたまた秋津遺跡です。檀考研が更に発掘を進めた結果、四世紀前半としては最大級という遺構群が発見されたと報じられました。堀で囲まれた方形区画が四カ所、その最大のものからは、大型建物を四棟検出。ほかの方形区画の内外からは多数の掘立柱建物や竪穴建物が検出されたようです。

来年はどんなビッグニュースに出会えるか楽しみです。

<http://homepage2.nifty.com/toyonakarekishi/>